

令和6年冬季(1~2月)スルメイカ漁況の見通し

令和6年1~2月の富山県沿岸におけるスルメイカ漁獲量は、平年(過去10年平均770トン)をかなり下回ると予想される。

<根拠となる考え方>

- 1~2月に富山県沿岸において主に定置網で漁獲されるスルメイカは、前年の春季に九州周辺海域で生まれた稚仔イカが日本海に流入し、日本海北部まで索餌回遊した後、産卵するために南下している途中で富山湾に入り込むものと仮定し、以下の3つの関係を用いて予想した。
 - 九州周辺海域の春季の水温が高くなると産卵場が北方に拡大することで、日本海への稚仔イカ流入量が多くなる。
 - 暖かい水を好むスルメイカが冬季に日本海北部を南下する際、能登半島北東海域における冷水塊の張り出しが強いと、沖合の冷たい海域を避け沿岸寄りを通ることで、富山湾内への来遊量が多くなる。
 - 北陸地方(福井県~新潟県)の冬季平均気温が低いと、その年の富山県における1~2月のスルメイカの漁獲量が多くなる。

<根拠の情報>

- 改良版我が国周辺の海況予測システム(FRA-ROMS II)によると、①九州周辺海域の令和5年5月の水深10m平均水温は18.29℃で、平年値(17.78℃)より0.51℃高く、②能登半島北東海域の令和5年12月上旬の水深50m平均水温は14.99℃で、平年値(14.10℃)より0.89℃高かった。
- 新潟地方気象台が令和5年11月21日に発表した北陸地方の12~2月の天候の見通しでは、③気温は高いと予報されている。

<予想結果>

- 九州周辺海域の5月水温からは日本海への稚仔イカ流入量が多いものの、能登半島北東海域の12月上旬水温および北陸地方の12~2月の天候の見通しからは富山湾への来遊量が少なくなり、これらの関係から導き出された計算式では、令和6年1~2月の富山県沿岸におけるスルメイカ漁獲量は384トンと計算された(図)。

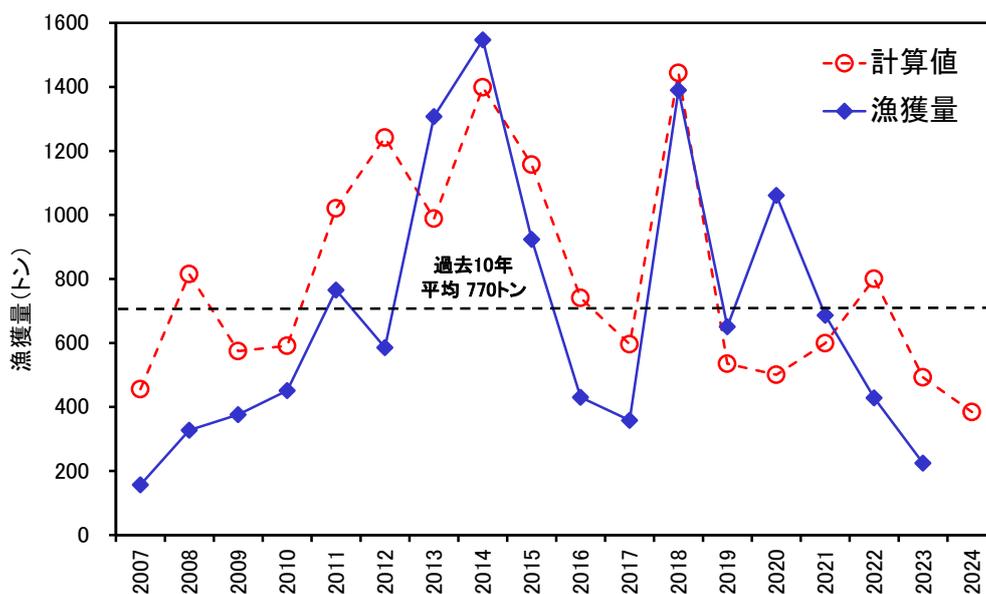


図 富山県沿岸における1~2月のスルメイカ漁獲量と計算値